

氏名	青 井 克 行
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 1489 号
学位授与の日付	昭和59年9月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）
学位論文題目	ベーチェット病の免疫異常に関する研究 第1編：ベーチェット病の結節性紅斑様皮疹，再発性アフタ性潰瘍の病理組織学的検討 第2編：ベーチェット病患者末梢血単球の chemotaxis の検討
論文審査委員	教授 木村郁郎    教授 長島秀夫    教授 野原 望

### 学位論文内容の要旨

ベーチェット病における免疫異常の検索を目的として，結節性紅斑様皮疹（EN），再発性アフタ性潰瘍（OA）の病理組織学的検討及び本症患者末梢血単球の chemotaxis を検討した。

第1編：ベーチェット病の EN,OA の浸潤細胞を早期より経時的に観察したところ，従来言われていた好中球浸潤の前に単核球が浸潤して来る事，及び，これらがピロニン好性リンパ球やマクロファージである事が確認した。

第2編：病変部への単核球浸潤の機序をうかがうべくベーチェット病患者の末梢血単球の chemotaxis を測定したところ，好中球と同様，chemotaxis が明らかに亢進している事が認められた。

以上から，ベーチェット病の EN,OA は，まず，感作リンパ球によるⅣ型アレルギー反応が惹起され，その後にリンパ球由来の chemotactic factor による好中球の浸潤がおこり完成されるという機序を考察し，本症の病変発現に単核球の関与の重要性を強調した。

### 論文審査の結果の要旨

本研究はベーチェット病の免疫異常に関して臨床的に研究したものであるが，従来十分観察されていなかったベーチェット病局所における好中球浸潤前において単核球の増

加及びその活性化を認め、又末梢血単球の走性は亢進を示すことを見出し、本症の病変の発現機序における単核球の重要性を認めており、重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。